

(別紙様式)

都道府県番号	4
都道府県名	宮城県

( )

該当する観点到にチェックをすること

・学校名及び規模 (平成15年1月30日現在)

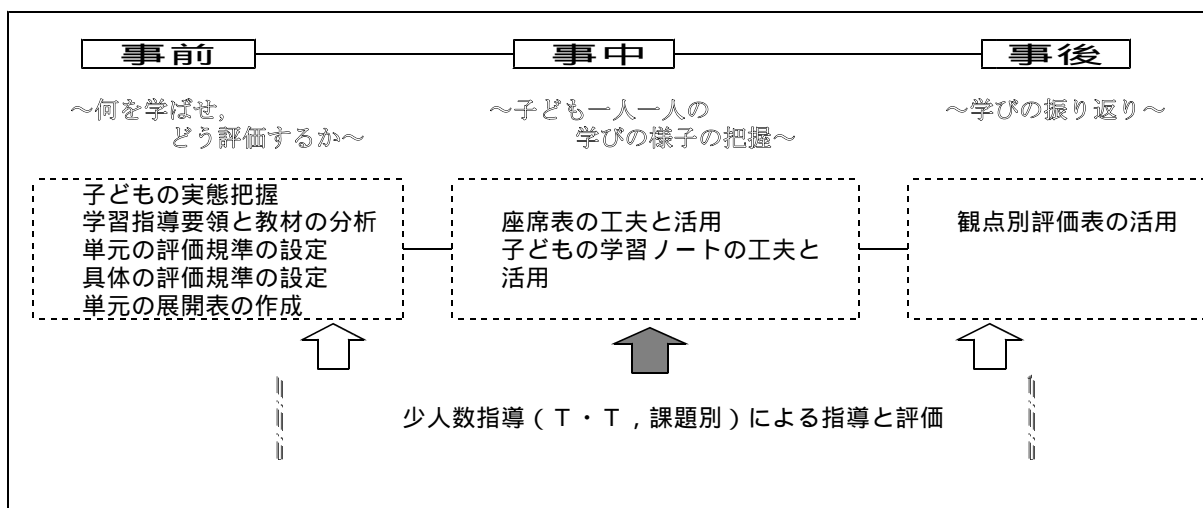
名 取 市 立 那 智 が 丘 小 学 校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12	
児童数	61	64	56	76	60	71	0	388	17

・実践研究の概要 ~評価を生かした指導の改善(国語科の指導を中心として)~

研究主題(テーマ) 確かな学力を身に付ける子どもの育成 ~基礎・基本を定着させる個に応じた学習指導の工夫を通して~ 研究の視点 ・視点1 評価規準を明確にした指導と評価(評価規準・具体的評価規準) ・視点2 学力を育む単元構成の工夫(問題解決的な学習、「学ぶ」学習・「生かす」学習) ・視点3 実態に応じたきめ細かな指導(理解や習熟の程度に応じた指導、繰り返し指導) ・視点4 指導体制の工夫(一斉指導、少人数指導、教科担任制)
---

・実践研究の内容

<評価を生かした実践の流れ>



( ) 事前~何を学ばせ、どう評価するか~

子どもの実態把握

子どもの学びの実態を把握するために、9月に国語科と算数科の学力テストを全学年実施した。全体的な学力の状況や領域ごとの達成状況について把握したことを考慮しながら、単元を構成した。

単元の評価規準の設定

子どもの個性を尊重し良さや可能性を伸ばすためには、子ども一人一人の表現活動や理解活動の良さを積極的に認め、それを生かした指導支援をしていくことが大切になる。そのために指導のねらいと評価規準を明確にした学習指導の工夫を行った。単元の評価規準は、学習指導要領の学年の目標と内容を押さえた上で、単元で学ばせなければならないことを明確にしながら設定した。(表1参照)

具体的評価規準の設定

単元の評価規準を設定すると同時に、各指導時間で具体的な子どもの姿をどうとらえるかを明らかにするために、具体的評価規準を設けた。具体的評価規準はその時間に学ばせたいことに応じた具体的な子どもの姿を考え、その時間に確実に評価できることに絞って設定した。評価の際は、具体的評価規準に表した子どもの姿をおおむね達成した姿ととらえた。

単元の評価規準を明らかにしようとする過程で、教材を詳細に分析した。そして、どの観点に重点を置いて、何を学ばせたいことを検討すると共に、どんな姿をどう評価するかを考えていくため、教材研究が深まった。(表2参照)

単元の展開表の作成

単元の展開と研究の4つの視点との関わりを明確にするために、単元の展開表を作成した。ここでは、単元の目標を達成するためにどのような子どもの姿を目指すか考えた評価規準を、学習活動のどこで、どんな指導体制でみとって指導に生かすかを考えた。(表1参照)

< 単元の展開表の例 (第6学年「海のいのち」) >

表1

視点1 (評価規準)	視点2 (単元構成)	視点3		視点4 (指導体制)
		(繰り返し)	(個に応じた)	
		短作文	音読	語句
<p>&lt;目標&gt;</p> <p>&lt;評価規準&gt;</p> <p>表現の細部に注意して物語を読み、主題について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;関心・意欲・態度&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>読解を深める学習に目的をもって取り組もうとしている。</li> </ul> </li> <li>&lt;話す・聞く&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の心情や主題について、自分の考えたことや伝えたいことを的確に話している。</li> </ul> </li> <li>&lt;書く&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の心情や主題について、重要語句を手掛かりにして考えを書いている。</li> </ul> </li> <li>&lt;読む&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の心情や考えなどを重要語句を手掛かりにして読み取り、主題について考えている。</li> </ul> </li> <li>&lt;言語事項&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字と言葉の意味、使い方を知る。</li> <li>新しい漢字14字を読み書きする。</li> <li>5年生で習った漢字10字を書く。</li> </ul> </li> </ul>	<p>問</p> <p>学</p> <p>学</p> <p>習</p> <p>決</p> <p>的</p> <p>な</p> <p>学</p> <p>習</p> <p>生</p> <p>か</p> <p>す</p>	<p>全文を通読し初発の感想を書く。</p> <p>物語の場面の展開を考える。</p> <p>学習課題を考え、学習計画を立てる。</p> <p>太一の父親はどんな人が読み取る。</p> <p>与吉いさの海に対する考えを読み取る。</p> <p>与吉いさが死んだときの太一の気持ちを読み取る。</p> <p>父の海に飛び込んだときの太一の気持ちを読み取る。</p> <p>クエに出会ったときの太一の気持ちを読み取る。</p> <p>村一番の漁師であり続けた太一について読み取る。</p> <p>物語の主題について考える。</p> <p>物語の主題について話し合う。</p> <p>物語の主題について話し合い学習のまとめをする。</p>	<p>初発の感想から読み取りの実態を把握する。</p> <p>学習課題についての考えから、言葉を手掛かりにして読み取っているか把握する。</p> <p>サイドラインを引いたり音読をしたりするとき、重要語句に着目して読み取ることができるようにする。</p> <p>読み取ったことを基に、イメージをふくらませて書けるようにする。</p> <p>主題についての考えを一人一人が確実に書いたり話したりできるようにする。</p>	<p>↑</p> <p>少人数 (T・T)</p> <p>↓</p> <p>少人数 (課題別)</p> <p>少人数 (T・T)</p>

< 具体の評価規準の例（第6学年「海のいのち」） >

表 2

時	学習活動	具体の評価規準・評価の方法				言語事項
		関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	
1	・全文を通読し初発の感想を書く。	・物語の内容や題名に関心をもっている。(発言)		・作品を読み感想を書いている。(ノート)		・漢字や言葉, 特別な読み方をする言葉を読んでいる。(音読)
2	・物語の場面の展開を考える。				・物語の場面をつかんで, 父親, 与吉じいさ, クエを通して太一が成長していく様子を, 六つに分けることができている。(発言・ノート)	
3	・学習課題を考え, 学習計画を立てる。				・場面ごとに書かれていることの大体が分かり, 学習課題を考えている。	
4	・太一の父親はどんな人が読み取る。	・学習課題について進んで考え, 自分なりに考えをまとめている。(ノート)	・太一について, またその父親について考えたことを的確に話している。(発言)	・読み取ったことを基に父親がどんな人物が考え書いている。(ノート)	・父親の海に対する思いを読み取っている。(発言・ノート)	
5	・与吉じいさの海に対する考えを読み取る。	・学習課題について進んで考え, 自分なりに考えをまとめている。(ノート)	・与吉じいさの海に対する考えについて考えたことを的確に話している。(発言)	・読み取ったことを基に与吉じいさの海に対する考えについて書いている。(ノート)	・与吉じいさの言葉を手掛かりに, 与吉じいさの海に対する思いを読み取っている。(発言・サイドライン・ノート)	

( ) 事中～子ども一人一人の学びの様子 of 把握～

T・Tによる指導

具体の評価規準に基づいて, 毎時間の子どもの様子を的確にみとり指導に生かすために, 読み取る学習までは T・T 指導の体制で授業を行った。T 1 が全体的な指導を行う一方で, T 2 は子どもの発言やノートに書かれたこと等を評価した。

座席表の工夫と活用

子どもの学習の様子を把握するとき, 座席表を活用して一人一人の状況を記録していった。座席表には, 本時の具体の評価規準を記入し, 評価の観点ごとに一人一人の学習状況を記録できるように工夫した。具体の評価規準の内容によっては, 授業の前や後に子どものノートを評価する等して, 時間ごとに設けた具体の評価規準についてはその時間に確実に評価できるよう努めた。(表 3 参照)

ノート指導の工夫

問題解決的な学習の流れに合うように, 子どもの学習ノートの書き方を工夫した。学習ノートは, 評価の方法として生かした。また, 学習課題についての事前の考えと事後の考えを比較することで子どもに学習を自己評価させたり, 考えを発表し合うことで相互評価させたりした。(表 4 参照)

( ) 事後～学びの振り返り～

観点別評価表の作成

評価したことを観点ごとに記録し, 単元の目標が達成できたかを確認するために観点別評価表を作成し, 評価の総括に生かした。(表 5 参照)

< 座席表 > (第6学年「海のいのち」4 / 12時)

表3

<関・意> 学習課題について・・・まとめている。(ノート)  
 <聞・話> 太一について・・・的確に話している。(発言)  
 <書 く> 読み取ったことを基に・・・書いている。(ノート)  
 <読 む> 父親の海に・・・読み取っている。(発言・ノート)

・課題についての考えをチェック -----> S  
 ・発言の回数と内容のチェック (読みの深い発言は別色で) -----> A  
 ・読み取ったことをチェック -----> 自分仕事に誇りをもっている人。でも自慢はしない人。

11月8日(金) 6年2組

本時の具体的評価規準


< ノートの使い方 > (5学年「注文の多い料理店」)

表4

ノートの見開きで使用

(板書) 風がどつと 西洋作り 実れんがっぱ	(事前の考え) おなかです 喜んでたもの
(事後の考え) 喜んでる合性よ自 だ。と格く分てな考に ものえ都	(事前の考え) おなかです 喜んでたもの

- ・ 考えの深まりを自己評価する
- ・ 友達と比べ合い相互評価する
- ・ 具体的評価規準に則った評価をする

< 観点別評価表の例 (第6学年「海のいのち」)

表5

観点	関心・意欲・態度			話す・聞く			書 く					読 む					総合評価	
	話す・聞く	書く	読む	ア話すこと	イ聞くこと	ウ話し合うこと	ア応じて	イ事柄の整理	ウ組み立て	イ意見と感想	ウ簡単・詳しく	オ推敲・評価	ア主体的な読み	イ要旨の把握	ウ人物の心情	イ工場の感想		オ効果的な読み
指導事項	話す・聞く	書く	読む	ア話すこと	イ聞くこと	ウ話し合うこと	ア応じて	イ事柄の整理	ウ組み立て	イ意見と感想	ウ簡単・詳しく	オ推敲・評価	ア主体的な読み	イ要旨の把握	ウ人物の心情	イ工場の感想	オ効果的な読み	総合評価
評価重点																		
氏名	A	A	A	A		B		A			B		A	A	A		A	A
氏名	C	C	C		C	C					B			C			B	C

・ 成果と課題

単元の評価規準や具体的評価規準を明確にして指導の工夫を考えることによって、教材研究が深まり、子どもの学びの姿を高めるための指導法、指導体制が工夫された。

具体的評価規準に則って評価することで、学びの姿を具体的に把握することができ一人一人の子どもに目を向けた指導ができた。

- ・ 評価したことを生かして個に応じた学習を更に深めるために、理解の程度に応じた授業のための教材開発や発展学習に力を入れたい。
- ・ 個に応じた学習指導の工夫を国語科において深めると共に、算数科に実践を広げていきたい。